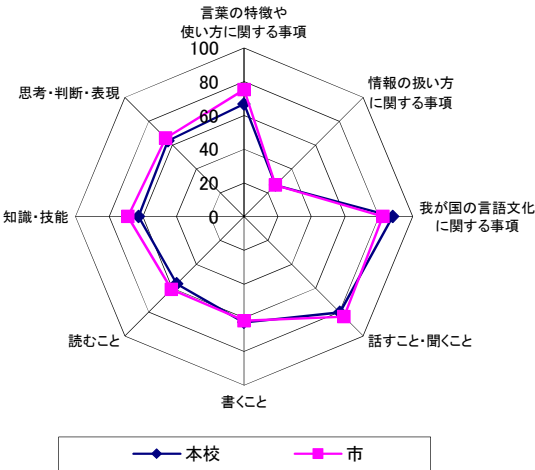


宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.8	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	26.5	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.2	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	80.4	83.9	84.2
	書くこと	62.7	61.7	64.5
	読むこと	56.4	60.9	61.0
観点別	知識・技能	62.6	68.8	70.3
	思考・判断・表現	63.7	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

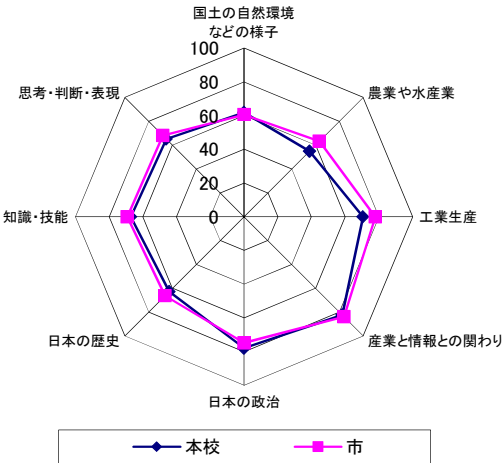
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使うことができていない。 ●第5学年に配当される漢字についての問題の正答率が低く、既習漢字の定着が不十分である。 ●文と文との接続の関係についての問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・教科書で習う漢字のページなどを活用し、学習した漢字を、朝の学習や国語の授業で復習をする時間を設けたり、文と文との接続について意識しながら話し合う活動を設けたりする。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均と同等。 ●文章の情報を整理する問題の正答率が低く、情報同士の関係を捉える力が十分でない児童が見られる。	・原因と結果など、情報と情報との関係について改めて授業で触れたり、図などを用いて情報と情報との関係を視覚化する活動を行ったりする。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解できている。	・今後も我が国の言語文化に親しめるように、和語・漢語・外来語に触れる機会を多く設定していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○インタビューの中で、話し方の工夫として最も適切なものを選ぶ問題については正答率が高い。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力に課題が見られる	・話し手の目的や自分が聞こうとする意図を意識して聞く活動を取り入れ、話の内容をまとめる力を身に付けさせたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く力が身に付いている。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率が低い。	・自分の意見をもつだけでなく、どのような反論があるのか考える活動を取り入れることで、より筋道の通った文章を作る力を身に付けさせたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○物語の描写から、登場人物の心情を捉えることのできる児童が多い。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる力が身に付いていない児童が多い。 ●説明文の文章全体の構成を捉えることができない児童が見られる。	・意見や感想を共有する活動を取り入れ、自分以外の意見に触れる機会を多く設けることで、自分の考えを深める力を身に付けさせたい。 ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、図などを使いながら整理しまとめる活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.8	60.5	65.8
	農業や水産業	54.9	63.3	66.0
	工業生産	70.6	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	82.4	83.8	76.6
	日本の政治	77.9	74.9	74.1
	日本の歴史	62.9	66.3	68.3
観点別	知識・技能	67.2	69.3	71.4
	思考・判断・表現	65.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

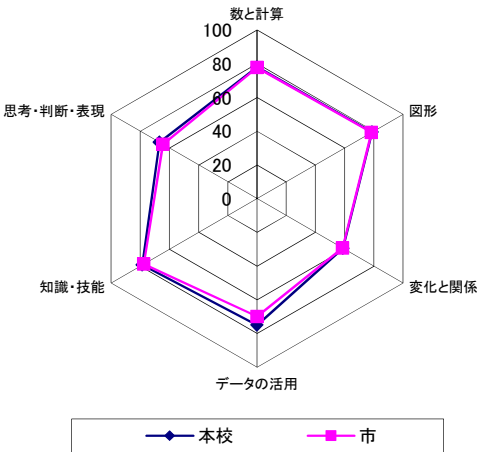
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○日本の周辺の海洋名についてよく理解しており、市の平均正答率よりも20ポイント高い。 ●公害について、理解している児童が少なく、市の平均正答率よりも8.5ポイント低い。	・公害について、地域で起こった公害と関連付けることで、身近なものとして考えられるように指導する。 ・5年生の学習時に公害発生の背景(経済成長至上)等を確認するとともに「環境」という事由で3～6年生の単元を関連付ける手立てを講じる。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ○輸入などの外国との関わりにおける課題については、市の平均正答率とほぼ同等であった。 ●日本の主な食料の自給率について理解している児童は少なく、市の平均正答率より12.8ポイント低い。	・日本の食料自給率に対する児童の興味・関心を高めるために、授業だけではなく、給食の時間なども活用し自給率に関する話題を取り上げていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自動車の製造工程について、9割以上の児童が理解できている。 ●日本の主な輸出・輸入品について理解している児童が少なく、市の平均正答率より15.3ポイント低い。	・日本の主な輸出・輸入品に対する児童の興味・関心を高めるために、関連する他教科の単元の学習の際に、輸出入に関する話題を取り上げ、横断的に学習ができるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○情報の発信と受信の注意点について、市の平均正答率より1.7ポイント低いものの、9割以上の児童が理解できている。	・5年生で学習した情報に関する学習内容についての復習を今後も継続して行う。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より高い。 ○平和主義の基本的な考え方について、100%の児童が理解している。さらに、基本的人権の尊重の基本的な考え方についても94%以上の児童が理解している。 ●税金の役割に関する資料の読み取りができていない児童は5割程度であり、市の平均正答率よりも15.6ポイント低い。	・資料を読み取り分かったことや考えたことを文章で表現する力を伸ばすために、授業の中で意図的に記述で答える機会を設ける。 ・国の予算の収支の意味と税金の流れについて捉えられるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれたころの様子について、理解している児童が多く、市の平均正答率よりも5.6ポイント高い。 ○鎖国について理解している児童が多く、市の平均正答率よりも6.9ポイント高い。 ●元との戦いについて理解している児童は2割程度であり、市の平均正答率よりも22.9ポイント低い。	・既習内容を定期的に復習し、知識がしっかりと身に付くようにしていく。 ・史実の学習の際は、人物・内容と併せて地図等を活用し、場所も確認できるようにする。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.1	77.7	78.6
	図形	78.8	78.4	74.4
	変化と関係	58.8	58.7	53.0
	データの活用	75.0	69.9	57.2
観点別	知識・技能	78.5	77.5	74.0
	思考・判断・表現	66.8	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

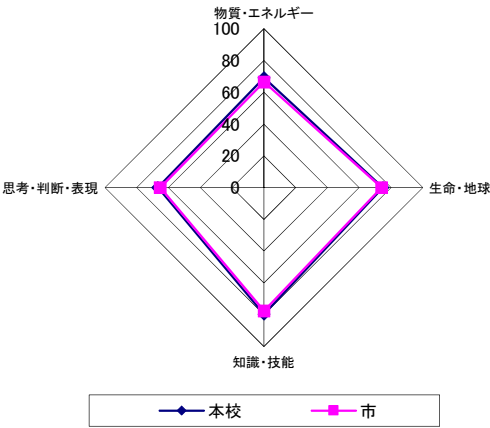
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○小数どうし、分数どうしのかけ算やわり算の計算について計算の仕方をほとんどの児童が理解している。 ○文字を使って2つの式の関係をもとに表したり、文字の値を求めたりすることができる。 ●基準量をもとに比較量が何倍になるかを分数や小数で求めることが十分ではない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で基礎・基本の定着を図っていく。 ・文章問題の意味を理解し、立式できるように繰り返し練習させ、習熟を図る。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○面積や体積を求める力が身に付いている児童が多い。 ○展開図を組み立てたときに重なる頂点についてよく理解している。 ●対称な図形において、対称の軸や対称の中心についての理解が十分とはいえない。	・図形の面積や体積を求める公式を活用した応用問題にも取り組み、習熟を図っていく。 ・対称な図形について、実際にかいたり具体物を活用したりすることで定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均とほぼ同等であった。 ○単位量あたりの大きさや速さについて理解している児童が多い。 ○円グラフから割合を読み取ることはよくできていた。 ●百分率の理解や、割引後の値段を求める方法についての理解が十分とはいえない。	・単位量あたりの大きさ、速さについては、引き続き応用問題などを朝の学習や家庭学習で実施し定着を図る。 ・百分率や歩合については、実生活と結び付けて考えさせることで、その必要性に気付かせたい。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○度数分布表の見方や、ドットプロットから最頻値や中央値の読み取り方について十分理解している。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを、記述で説明することが苦手な児童もいる。	・データの活用で扱う語彙の意味を理解し、計算によって値が求められるよう、繰り返し指導し定着を図る。 ・日頃から、自分の考えや理由を言葉で表現できるよう、繰り返し指導していく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.1	66.5	66.3
	生命・地球	74.9	74.0	72.6
観点別	知識・技能	79.7	77.6	78.2
	思考・判断・表現	66.8	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「ふりこのきまり」の設問において振り子の周期は振り子の長さによって決まることを説明することができていた。 ○「電流のはたらき」で電磁石の性質をもとに、おもちゃの車が走るように改善する方法を記述することができていた。 ●「水溶液の性質」の設問において未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題で、順序立てた実験計画を選択することが難しかった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・目的に応じた実験計画を児童が立案できるようにするために、課題を明確にし、科学的な見方・考え方をを用いて実験や観察に取り組めるように、既習事項や生活経験を生かした授業展開を行い、自ら解決しようとする児童の育成に努める。
生命・地球	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○「生物とかんきょう」の設問では、野生のメダカが何を食べるかを理解していた。 ○「月と太陽」の設問では、月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘することができた。 ●「天気の変化」の設問では、台風が上陸しやすい時期をもとに、ダムの水位を減らす時期を推測することが難しかった。	・図やモデル、映像教材を活用して視覚的に理解できるようにするとともに、自然現象を言語化したり、学習内容と実生活との関連に気付かせる機会を多く取り入れる。

宇都宮市立豊郷北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話したり聞いたりできるようにする。	算数と理科の本校児童の平均正答率が市の平均正答率に比べてやや上回った。朝の学習時間に、AIドリルを活用した基礎基本の定着を図ってきたが、児童一人一人に合ったペースや問題の難易度で学習に取り組むことができた。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。 互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	国語と社会の本校児童の平均正答率は市の平均正答率に比べて下回った。対話的な学びの機会を意図的に取り入れて授業を展開してきたが、話し合いまでに至らず伝え合いにとどまった場面も多くあった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

算数や理科での本校児童の平均正答率は市の平均正答率に比べてやや上回ったが、国語や社会では市を下回った。国語や社会の授業において、課題解決するとき多角的に考察した結果は一つではなく、そこに相互の考えを共有し合って考えを広めたり深めたりする必要がある。確かな学力をつけるため、重点的に学び合いの機会を効果的に設けていきたい。

また、問われている内容を正確に把握できないまま解答したり、国語の「読むこと」の正答率が低かったりすることから、文章に慣れ親しみ、文章からの確に情報を得られるよう、図書利用や読書推進に取り組みたい。